

「生ごみを減らすために家庭の意識づくりを」シンポジウム開催

1月28日(火)、鶴田町国際交流会館ホールで「鶴田町生ごみ減量化対策シンポジウム」が開催され、町内外から約270人が参加しました。

同シンポジウムは、当町が生ごみの減量とリサイクル率向上を実現するため、生ごみの減量化対策に着目し、食品ロス(=まだ食べられるのに捨てられる食べ物)削減のために町民一人ひとりがどのようなことをすればよいのかを認識してもらうことを目的として開催されました。

基調講演では、当町が昨年9月に町民を対象に行った家庭系生ごみ実態調査結果を県立保健大学大学院の吉池信男教授が解説。家庭の食品ロスに関する認識調査と、食品ロスの実態把握のための家庭から排出される生ごみの組成調査の2種類の結果をもとに、当町が全国と比較して野菜の廃棄量が多いことなどを指摘しながらも食品ロスを減らすために改善の余地があることを報告しました。

続いて、「食生活の現状と今後の取り組み」のテーマをもとに行われたディスカッションでは、青森食育サポーターの資格をもつ川口浩一さんが「生ごみを減らすためには各家庭の意識が大事ではないか」と問題提起すると、吉池教授は「ゴミだけでなく『食べる』ことに立ち止まり、町の食育活動の中に食品ロスの考えを取り入れたらいいのでは」と主張。また、「ナギサカフェ」オーナーシェフのなぎさなおこさんは「どれくらい必要なか適量を知ることが大事なのでは」と述べるなど、当町の生ごみの減量化に向けた意見が交わされていました。



△県立保健大学大学院の吉池信男教授



△川口浩一さん(左)となぎさなおこさん(右)

ダム周知のためにバトンをつなぐ

現在建設中の津軽ダムについて流域の住民の皆さんの認識を深めてもらうことを目的に、当町を含めた津軽ダム建設促進期成同盟会(会長:葛西憲之弘前市長)を構成する津軽地域の8市町村をリレー形式でつなぐパネル展が開催されています。

2月14日(金)、津軽ダム工事事務所の山谷博志所長が役場を訪れ、中野町長にリレーバトンを手渡しました。パネル展では平成28年度の完成に向けて進捗している津軽ダムの様子や目的などをお知らせしています。当町では2月14日(金)から21日(金)まで国際交流会館でパネル展が開催されました。



△山谷所長(右)から中野町長へバトンが手渡されました

第3回ナイターカップ大会開催

1月31日(金)、町営富士見スキー場で、町スキー協会主催による「第3回鶴田町ナイターカップ大会」が開催され、町初心者スキー教室と初心者ポールレッスン教室に通う生徒の皆さんが練習の成果を競い合いました。



△大会に参加した生徒の皆さん

「子どもたちのために」寄付金を贈る

2月23日(日)、ムエタイ世界王者の一戸総太さんが児童養護施設「幸樹園(山口俊輔理事長)」へ寄付金と子どもたちへのメッセージを綴った手紙を贈りました。一戸さんは「子どもたちのために役立ててほしい」と話していました。



△子どもたちに寄付金を手渡しました



△参加者全員で口腔ケアを実践しました

元気なうちから口腔ケアを定着

2月10日（月）から19日（水）までの5日間の日程で、町保健福祉センター「鶴遊館」を会場に「食生活改善推進員養成講座」が開催され、食への知識を深めたい、家族の健康を大切にしたいと考える町民12人が参加しました。

2月14日（金）には、「医療法人サンメディコ下田クリニック」から言語聴覚士の資格をもつ盛康さんが来町し、口腔ケアについての講義を行いました。盛さんは口の中をきれいに保つことで病気に強い口腔となることを説明。さらに、おいしく食べるために、元気なうちから口腔ケアを定着させる必要があることを述べたうえで、参加した皆さんに口の体操や唾液腺マッサージなどの口腔ケアを教えていました。

胡桃館小がプルタブを寄贈

2月21日（金）、胡桃館小学校（原真紀校長）では昨年4月から12月の期間に収集したプルタブ52.4kgを町社会福祉協議会（中野肇司会長）へ寄贈しました。

プルタブの収集は同校の運営委員会が児童だよりや全校集会などで全校生徒60人に呼び掛けて行いました。各家庭から持ち寄ったプルタブは学年単位で集計し、生徒1人当たりの重量が多い学年に運営委員長から表彰状が贈られました。

同校の校長室で行われた寄贈式には、運営委員長の一戸佳祐さん、副委員長の須郷有咲さん、書記の平田大輝さんが出席。中野会長から感謝状を受け取った一戸佳祐さんは「プルタブがたくさん集まってうれしかった。役立ててもらいたい」と話していました。



△町社協へプルタブ52.4kgが寄贈されました



△中野町長から激励される唐牛さん（左）

県ジュニアバスケット代表に選抜される

3月28日（金）から30日（日）に開催される第27回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会（日本バスケットボール協会主催）に出場する青森県代表チームのメンバーに当町から鶴田中学校2年の唐牛秀人さんが選抜され、2月25日（火）、大会出場のため中野町長を訪問しました。

唐牛さんは、昨年11月に五所川原市で行われた最終選考大会でそのプレーが県代表チームの監督やコーチの目にとまり、代表に選ばれました。

報告会で中野町長から激励された唐牛さんは「県代表として大会に出場し、もっと上を目指せるように頑張りたい」と抱負を語っていました。

【広報つるた有料広告】



(株)津軽りんご市場

〒038-3684 北津軽郡板柳町大字三千石字二湯 21-3

TEL **0172(72)1211** FAX **0172(72)1229**

ホームページ <http://tsugaruringo.jp/>

青森りんごは元気の源！

有料広告を募集しています

町を応援する「広報つるた有料広告」を募集しています。毎月、町のほぼ全世帯（発行部数約5,000部）に配布され、多くの町民の方が目にしますので新聞など同様の宣伝効果が見込めます。有料広告掲載を希望される企業・団体の皆さまはぜひ下記までお問い合わせください（※なお、広告の内容によっては掲載できない場合もあります）。

■問い合わせ先 総務課 まちづくり班（内線264）